



年末年始の火災に注意しましょう

空気が乾燥する冬は、年間を通して火災が発生しやすい季節です。気温が低くなり暖房器具を使用する機会が多くなるとともに、消し忘れたり、転倒させたり、近くに置いていたものに燃えうつるといった理由で、暖房器具は冬の火災原因の代表的なものでもあります。

これらの器具類を使用するときは十分注意し、火災のない年末年始を過ごしましょう。



住宅防火 いのちを守る 10のポイント

4つの習慣

- ・寝たばこは、絶対やめる。
- ・ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ・ガスコンロなどのそばから離れるときは、必ず火を消す。
- ・コンセントは、ホコリを清掃し、不必要なコンセントを抜く。



6つの対策

- ・逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ・寝具、衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
- ・火災を初期段階で消火できるよう、住宅用消火器を設置する。
- ・お年寄りや身体の不自由な人は避難経路と避難方法を常に確保し備える。
- ・ストーブやこんろなどは安全装置が付いた機器を使用する。
- ・防災訓練への参加など地域ぐるみの防火対策を行う。

こんなことにも注意しましょう！！

- ・家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- ・たばこの投げ捨てをしない。
- ・電気コンセントのほこりを時々掃除する。
- ・暖房器具は点検をしてから使用する。
- ・ストーブをつけたまま寝ない。
- ・ストーブの上に洗濯物を干さない。
- ・石油ストーブは火を消してから給油する。
- ・野焼きは原則、禁止です。
- ・室内の定期的な換気を行いましょう。



餅による事故に注意！

正月の時期になると、お雑煮など餅を食べる機会が増えるため、餅をのどに詰まらせて窒息してしまうといった事故が多くなります。

窒息事故を防ぐために注意すること！

- ・食べる前に水やお茶を飲む
- ・ひとりで食べない
- ・一口を小さく、ゆっくりよく噛む
- ・酒を多量に飲みながら餅を食べない



異物がのどに詰まったときの対処法

まわりの人が、まず詰まらせたことに気づくことが重要です。急に咳き込んだり、突然言葉を発せなくなったり、のどを両手でかきむしるようなしぐさ「窒息のサイン（チョークサイン）」をします。のどに異物が詰まってしまったのか必ず確認しましょう。

積極的に咳を促す

呼吸時に「ヒューヒュー」など異音がある場合は、異物が部分的に詰まっている場合があります。異物が取れるまで咳をするように促しましょう。



背部叩打法とハイムリック法

完全にのどが詰まり窒息になってしまった場合の対処法として、背部叩打法とハイムリック法があります。

1. 背部叩打法

背部叩打法は、左右の肩甲骨の中間を手の付け根で上部へ突き上げるように叩きます。5回程度連続して叩いた後に確認し、異物が除去できるか反応がなくなるまで、その動作を繰り返してください。



2. ハイムリック法（腹部突き上げ法）

のどに詰まらせている人の背部に立ち、おへそのやや上（みぞおちの下方）に親指を腹部にあてて握りこぶしをつくり、もう片方の手を添えて、すばやく上方へ突き上げるように圧迫します。臓器を損傷している可能性がありますので、実施後は必ず病院を受診しましょう。＊妊婦や1歳未満児には行えません。

反応がなくなった場合は

- 発見したときから反応がない、もしくは異物除去を実施中に反応がなくなってしまった場合は、ただちに通常の心肺蘇生を開始します。
- 助けを呼ぶことや119番通報が済んでいない場合は、ただちに助けを呼び、119番通報とAEDを手配します。
- 心肺蘇生を開始します。
- 心肺蘇生を行っている途中で、口の中に異物が見えた場合は、異物を取り除きます。
- 口の中に異物が見えない場合は、異物を探すのに時間を掛けず、心肺蘇生を繰り返します。



■問い合わせ■ 消防本部 ☎54-0119